

第12回 室蘭市環境審議会 会議録

1. 日 時

令和2年1月27日（月） 14:00～

2. 場 所

室蘭市役所本庁舎 2階3号会議室

3. 出席者等

- (1) 出席委員：中野会長、亀田副会長、石川委員、氏家委員、真壁委員、立野委員、渡辺委員、山内委員、西畑委員、石田委員
- (2) 欠席委員：山城委員
- (3) 事務局：杉本生活環境部長、北川環境課長、鈴木同主幹、後藤同主査、川辺同主査、内田同主事補

4. 会議次第

- (1) 開会
- (2) 事務局挨拶
- (3) 令和元年度版 室蘭市環境白書（案）について
- (4) 室蘭市環境に関するアンケート調査結果について
- (5) 室蘭市環境基本計画（骨子案）について
- (6) その他
- (7) 閉会

5. 議事

（次第1～2 省略）

次第3 令和元年度版 室蘭市環境白書（案）について

【会 長】

次第3報告「令和元年度版室蘭市環境白書（案）」について事務局から報告をお願いする。

（事務局より説明）

【会 長】

ただ今の説明について、質問・意見があれば、発言をお願いします。

【A委員】

2点について伺う。

23ページの水銀に関して、御前水と輪西のほかに白鳥台でも測定が行われているが、白鳥台が含まれている理由はあるのか。

次に、38ページのエコオフィスプランについて、目標が基準年と比較してマイナス5%と設定されており、平成30年度時点ではマイナス3.9%とのことだが、目標達成に向けた更なる取り組みについて具体的に考えているのか。

[事務局]

水銀の測定を白鳥台地区で実施した理由について、水銀の規制対象になっているばい煙発生施設は廃棄物焼却炉であり、室蘭市内の廃棄物焼却炉はJESCO、西いぶり広域連合が保有する2ヶ所となっている。JESCOが保有する分については、御前水または輪西で測定し、西いぶり広域連合が保有する分については、白鳥台で測定を実施している。

エコオフィスプランについて、近年は基準年度より増加傾向にあったが、公共施設の統廃合が進んだことなどにより、エネルギー消費量が減ることとなった。目標達成に向けた取り組みについて、省エネに向けた設備投資について、予算の都合上、難しい状況にあるが、引き続き職員による取り組みを継続することが重要と考えている。

【B委員】

34ページの公共下水道について、全国的に老朽化が進んでおり、更新が思うように進んでいないかと思うが、室蘭市の更新状況はどのようになっているのか。また、室蘭市の下水道管の総延長はどのくらいなのか。

[事務局]

担当部局が異なり、正確な数値は把握していないため、後日改めてお答えさせていただく。

【B委員】

水洗化の促進とあるが、水洗化整備状況に地域差はあるのか。

[事務局]

水洗化率について、下水道の整備計画において都市計画区域内を整備することとしているため、環境白書に記載のある水洗化率については、あくまで都市計画区域の面積に対する割合である。都市計画区域外の地域については、下水道整備の対象外となっている。

【C委員】

21ページの有害大気汚染物質について、ニッケルとマンガンについては上昇理由や対策について記載されているが、ベンゼンについては基準値が下回っているとのみ掲載されている。輪西地区ではベンゼンの数値が年々上昇し、基準値に近づいている状況だが、主な上昇理由や対策についてはどのようになっているのか。

[事務局]

対象地区が仲町近辺となっており、上昇した可能性の一つとして、日本製鉄のコークス炉の老朽化が考えられる。昨年からコークス炉の耐熱レンガの補修工事を実施しており、工事完了後については、ベンゼンの漏洩量は減少すると想定している。

【C委員】

環境白書を見たときに本文とグラフの印象が異なる。今回説明のあった通り、本文にも記載することで、市民が見たときに理解できるのではないかと。

[事務局]

対応する。

【D委員】

35ページのアライグマの捕獲状況について、捕獲数の多い地域はあるのか。

また、知り合いの農家では鳥類による被害が発生していると聞いているが、外来種等の情報はあるのか。

[事務局]

アライグマの捕獲状況について、地区別の実績については手元に資料がないが、山沿いが多いと認識している。

鳥類の被害に関して市でも相談を受けているが、カラスによるものが多く、外来種による被害は聞いていない。

【B委員】

40ページの環境家計簿について、私も毎年エコライフ☆チャレンジャーに参加しており、電気などの使用状況をチェックできるので良いと思うが、参加者数が少なく、市民への周知がもっと必要だと思う。SDGsなどを踏まえても取り組みを進めて行く必要があると思う。

[事務局]

エコライフ☆チャレンジャーへの参加者数が少ないとのご指摘だが、街頭啓発などのあり方を検討し、市民が参加しやすい取り組みを考えていきたい。

【E委員】

今年度もエコライフ☆チャレンジャーの募集を行っていると思うが、昨年度と比較して参加者数は増えているのか。

[事務局]

昨年度より参加者数は減っている。

【会 長】

そこに向けた対策等はあるのか。

[事務局]

対応に苦慮している部分もあるが、現在、環境問題について世間の関心も高くなって

いることから、身近な所から関心を持てる取り組みやすい事業を検討していきたい。

【F委員】

海洋プラスチックごみに関して、室蘭市での調査は行っているのか。

[事務局]

海洋プラスチックごみに関する独自調査は行っていないが、イタンキ浜などで行われるボランティア清掃を通じて、漂着物や発生元の情報などは確認している。

海洋汚染は室蘭市だけで解決できる問題ではないが、プラスチックスマートなどの啓発を通して、プラスチックごみ排出量の抑制や適正処理等を市民に周知していくことはできると考えている。

【会 長】

どのように啓発することで、海洋プラスチックごみは減るとお考えか。

[事務局]

市の啓発だけでは海洋プラスチックごみを減らすことは難しいと考える。ただ、全国市長会では環境問題について議論し、国に要望を出すなどしており、7月からコンビニエンスストアでのごみ袋有料化が全店舗で始まるなど、国全体での取り組みが行われている。

【会 長】

イタンキ浜でプラスチックごみが打ち上げられているのを見かけるが、イタンキ浜周辺でゴミ箱の設置や啓発看板などは設置しているのか。

[事務局]

プラスチックごみに特化したものではないが、環境美化啓発に関する看板は設置している。イタンキ浜に打ち上げられているごみは、その場で捨てたごみではなく、どこかで捨てられたごみが海流に乗って漂着している可能性が高いと考えている。

【会 長】

イタンキ浜は室蘭市の景勝地となっていて、市外から来た人をイタンキ浜に連れて行き、鳴り砂などの良いところを知ってもらいたいのに、ごみなどがちらかっており、もう少しなんとかならないものか。

[事務局]

現在、日胆地区の海岸漂着物対策会議において、イタンキ浜は美化促進地域に認定されており、毎年、北海道の事業で流木等の大型漂着物を定期的に処理している。

一方で、一度漂着物を撤去しても、ひっきりなしに漂着するため、市民団体等のボランティア清掃などを通じて粘り強く対処している状況である。

【C委員】

漂着しているプラスチックのうち、半数くらいが漁具や漁網との推計があり、漁業関係者の中でも対策をしているところもあるようだが、室蘭市においても漁業関係者と連携を取っているのか。

[事務局]

定期的ではないが、室蘭市で回収した漂着物のうち、漁具や漁網などで再利用できるものについては、引き取ってもらうなどの協力はしていただいている。

【C委員】

漂着物の再利用については協力を得ているとのことだが、ごみを発生させないための連携はされているのか。

[事務局]

発生させないための具体的な取り組みはないが、意識的なものとして、漁具や漁網の再利用をしていただいているものと考えている。

【C委員】

全国の漁協では漁網や漁具を海洋に流出させない取り組みはあるのか。

[事務局]

具体的な取り組みについては聞いていないが、今後情報収集を行っていきたい。

【会 長】

漂着物の清掃は1週間に1回など定期的に行っているのか。

[事務局]

清掃はまち「ピカ」パートナーなどの登録団体によって実施いただいております、定期的ではないが、多くの団体がイタンキ浜などの清掃を行っていただいているため、かなりの頻度で清掃が行われている。室蘭市からは各団体に対して、ゴミ袋の配布や清掃後のごみを無償回収している。

【会 長】

小中学校や高校と連携した取り組みがあればいいと思うが、室蘭市ではそのような取り組みはないのか。

[事務局]

教育カリキュラムの関係もあると考えるので、即実施の要請は難しいが、総合学習の中で環境学習が行われていると聞いている。大学の卒業論文や中学校の学生新聞などで環境について取り上げられることも多く、学校から環境課への問い合わせも増えている。

【会 長】

他に意見のある委員はいませんか。

本日の報告書は、平成30年度分の施策状況をまとめたものであり、後日、市民の皆様にご公表されます。本日出された意見を参考に、今後の計画推進に努めていただきたい。

次第4 室蘭市環境に関するアンケート調査結果について

【会 長】

次第4報告「室蘭市環境に関するアンケート調査結果」について事務局から報告をお願いします。

(事務局より説明)

【会 長】

ただ今の説明について、質問・意見があれば、発言をお願いします。

【B委員】

32ページの間4に室蘭市が力を入れていくべき環境施策について、暮らしの中の省エネやCO2削減の推進との意見が多く、エコライフ☆チャレンジャーや環境家計簿の普及などが求められているので、普及方法について検討してもらいたい。

【F委員】

市民アンケートの回答率が27.5%とあるが、回答率はどのくらいを想定していたのか。

[事務局]

アンケートの回答率について、総務省で示されている有効回答数を想定して送付している。今回の回答数は有効回答数を上回っている状況である。

【F委員】

関心を持っている市民がいる中で、環境マイスター制度などを利用して、指導していく立場の人が増えれば、アンケートで出てきた問題点にも応えられる。以前は、室蘭環境大学も行われていて、市民が環境に関心を持ち、環境問題に取り組んできた。環境都市として人材育成などにも取り組んでももらいたい。

【会 長】

ごみの分別方法について、市町村によって分別方法が異なっているが、どのように決められているのか。

〔事務局〕

分別方法は市町村の一般廃棄物処理基本計画の中で定めることとしており、各市町村の意向が反映され決められている。また、各種リサイクルについては、推進法で定められており、すべてをリサイクルすることが理想ではあるものの、リサイクルを行う場合、処理するよりも経費がかかるため、市民への負担等のバランスを考えて判断している。

たとえば、道東などの農業が盛んな地域では堆肥化施設に経費を費やすことができるが、室蘭市のような工業地帯では、堆肥化施設を作っても需要がなく、資源の循環ができないなどの問題がある。

【C委員】

アンケート結果を見て、従来から問題になっていた大気汚染、水質汚染に対する意見が多いと感じる。ほとんどの項目で環境基準はクリアされているが、次の環境基本計画では環境基準をクリアするだけでなく、市民の健康不安を払拭すべく、さらにきれいにしていくことを目指す必要があるのではないかと感じた。

次第5 室蘭市環境基本計画（骨子案）について

【会 長】

次第5報告「室蘭市環境基本計画（骨子案）」について事務局から報告をお願いします。
（事務局より説明）

【会 長】

施策の方向、長期的目標、基本目標、基本施策についてこのような形でよろしいか。
（※委員からの意見なし）

今の説明について、質問・意見があれば、発言をお願いします。

【G委員】

P D C Aサイクルに基づき計画の進行管理をするとの記載があるが、P D C Aサイクルがどのように回っているのかを意識した上で、さきほどの環境白書を見ていると、公害関係は分析結果などの指標があるため議論ができていますが、市民協働の部分については、どの程度市民が活躍しているのかがわかりにくい。事業への参加者数やごみ回収量などの実績を測定し、環境白書に掲載するなど、P D C Aサイクルを検証するための工夫が必要と感じた。

【C委員】

S D G sの中で注目されている海洋プラスチック問題や気候変動に対する適応策について、室蘭市として具体的に取り組む姿勢を計画の中で見せた方がいいのではないかと。

話は変わるが、P C B処理施設の処理期限終了後の活用方法についてはどのようになっているのか。また、活用策があるなら環境基本計画に盛り込むことはできないか。

[事務局]

処理期限終了後における施設の具体的な活用方法については、現時点で決まっていな
いが、今後は国と協議していくこととなる。活用策を環境基本計画に盛り込むことは策
定時期を考慮すると難しい。

【会 長】

環境基本計画については、本日の意見等を踏まえて策定していただきたい。

次第6 その他

【会 長】

その他、本日の会議を通して、質問・意見があれば、発言をお願いする。

【会 長】

ごみを出すときに指定ごみ袋を購入していなければならないが、ごみ袋の料金設定は
どのようにされているのか。

[事務局]

ごみ袋の料金はごみ処理手数料として徴収している。手数料算定において、一般的に
は、ごみ袋の作製費、ごみの収集運搬費、焼却処分費、最終処分費などの経費を基に算
出し、受益者負担分の割合などを勘案し、手数料として徴収している。

【F委員】

他都市では低炭素に向けた取り組みを市独自でやっているとの話を聞いたが、室蘭市
においても環境負荷を低減するための独自の取り組みを期待したい。

【会 長】

アンケートでは身近なところに対する意見が多く、街をきれいにしていく上で、重要
な指標となるため、できる限り参考にしてもらいたい。

次第7 閉会

【会 長】

他に意見はありませんか。意見がなければ環境審議会を終えます。